

# 公共交通**活**性化総合プログラム

---

## 事例集



国土交通省

# はじめに

公共交通は、地域における経済社会活動の基盤であり、住民の移動手手段の確保、地域の活性化、環境問題への対応等わが国の重要な諸課題への的確な対応のためにも、その活性化は喫緊の課題となっています。

このような状況を踏まえ、国土交通省では平成 14 年度に「公共交通活性化総合プログラム」の制度を創設し、各地域における公共交通機関のサービスの維持やサービス内容の拡充などに関する事案や課題について、運輸局が中心となりながら関係者とともに検討し、具体的な解決に向け合意形成を図りながら総合的な方策を策定してきたところです。

この冊子は、これまでに多くの取組みが実施されている公共交通活性化総合プログラムの中から特徴的な事例を紹介するものです。

今後各地域で公共交通活性化総合プログラムが実施される際、自治体や交通事業者を含めた関係主体は勿論のこと、広く公共交通に係わる方々のお役に立てば幸いです。

平成 20 年 3 月  
国土交通省

# もくじ

---

1	公共交通活性化総合プログラムの概要	1
2	公共交通活性化総合プログラムの実施状況	2
2.1	年度別地域別の実施状況	2
2.2	公共交通活性化総合プログラムの実施内容	3
3	公共交通活性化総合プログラムの実施事例	6
事例1	当別町コミュニティバス実証運行に係る利用動態検討プロジェクト	7
事例2	北海道遺産・摩周湖におけるエコ交通整備検討に関する調査	9
事例3	NPOによる「まちづくり活性化バス」の利用促進策の策定	11
事例4	長野県安曇野地域における公共交通システム構築プロジェクト	13
事例5	伊賀線の利用促進に併せた伊賀市の公共交通ネットワーク整備調査	15
事例6	三ノ宮周辺における公共交通乗継円滑化関連調査	17
事例7	阪神都市圏におけるバス利用促進プログラム	19
事例8	吉野山観桜期トップシーズンにおける交通アクセス改善プログラム	21
事例9	秋吉台エリアにおける生活交通利用促進のための 地域交通検討プロジェクト	23

# 1 公共交通活性化総合プログラムの概要

公共交通活性化総合プログラムとは、各地域における公共交通機関のサービスの維持やサービス内容の拡充などに関する具体的事案、課題について、運輸局及び運輸支局が中心となって、関係者に参画・協力を呼びかけて一緒になって検討する場を設置し、具体的な解決に向け、それぞれの関係者の役割に関する合意を得ながら、総合的な具体的方策を策定するための制度で平成14年度に創設されました。

また、このプログラムは単なる地域の交通計画や調査を行う事業ではなく、地域で問題となっている事案等について、国の機関や地方公共団体、交通事業者や経済団体等の関係者で「検討会」を設置して話し合い、その問題解決に向けて必要な施策等を総合的に行動計画としてまとめ、公表してきました。

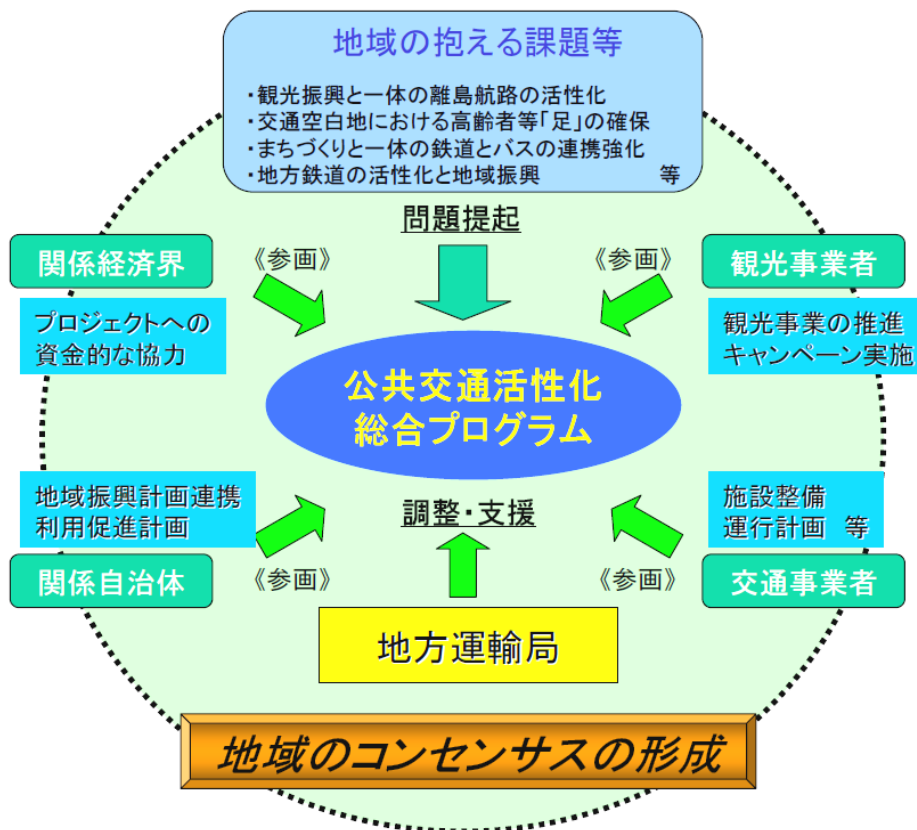


図 公共交通活性化総合プログラムの概要

## 2 公共交通活性化総合プログラムの実施状況

### 2.1 年度別地域別の実施状況

平成 14 年度より実施されてきた公共交通活性化総合プログラム案件は毎年約 100 件程度実施されてきており、平成 18 年度までに全国で累計 480 件が実施されてきました。

地方運輸局ごとにみると関東が最も多く 76 件、次いで中部の 69 件、近畿の 63 件となっており、大都市圏を抱えている地方で案件数が多い傾向にあります。

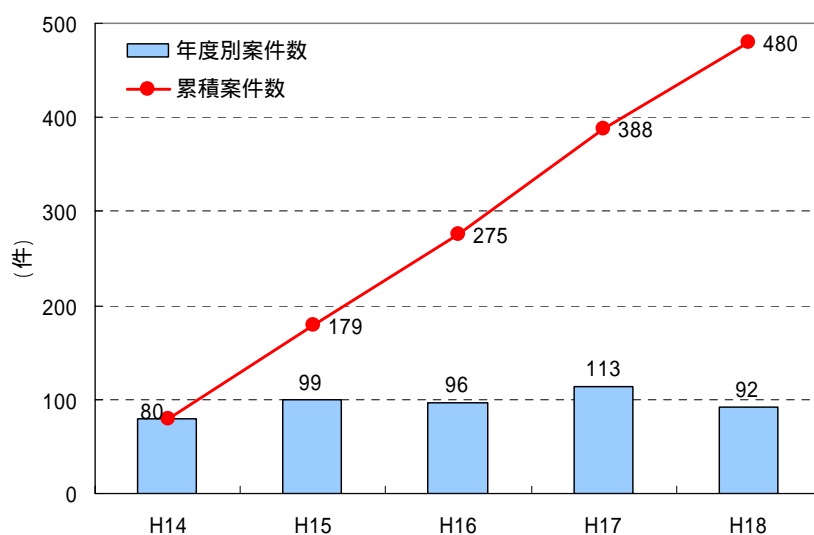


図 年度別のプロジェクト案件数と累計案件数

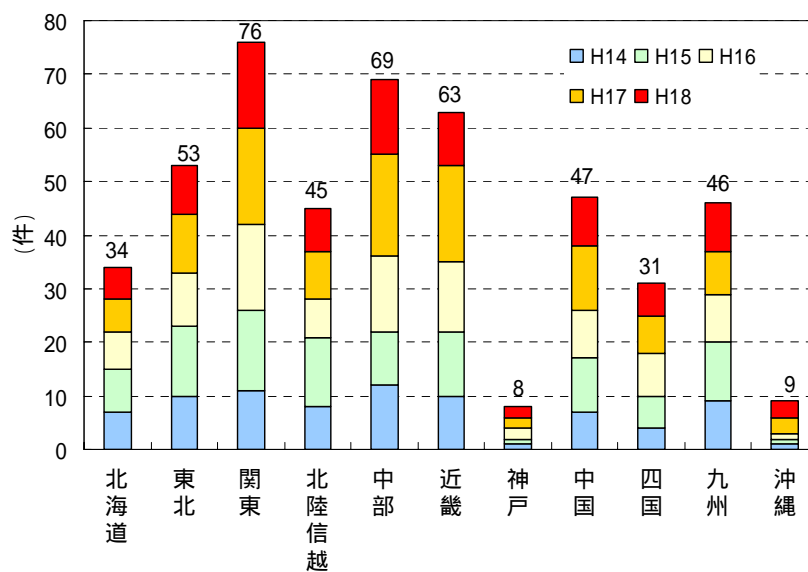


図 年度別地域別のプロジェクト案件数

## 2.2 公共交通活性化総合プログラムの実施内容

全国で実施されている公共交通活性化総合プログラムの内容は極めて多岐にわたっており、様々な地域の実情や抱えている問題がそれぞれに異なっていることがうかがえます。

平成 18 年度に実施された全国 92 件のプロジェクトの具体的事案、課題の対象を、下表のように、対象とする交通、対象とする基盤（施策）で区分してみると、対象とする交通では観光交通が、対象とする基盤（施策）ではバス・タクシーが多い傾向にあります。

表 平成 18 年度案件の実施内容

	1) 通勤・通学交通	2) 過疎・高齢・買物交通	3) 観光交通	4) 広域交通
①軌道関係	関東 2 (日立電鉄) 中部 2 (名古屋駅) 中部 3 (福井鉄道) 中部 4 (伊賀線) *	中部 14 (御殿場)	関東 7 (川越) * 中国 2 (呉線) 九州 2 (久大本線) 九州 9 (阿蘇 DMV)	東北 4 (仙山圏) 中国 9 (米子)
②バス・タクシー関係	北海 3 (帯広) 東北 9 (仙台圏) 関東 4 (富士吉田) 関東 5 (日暮里) 関東 15 (TXバス) 中部 1 (豊田) 中部 4 (伊賀線) * 中部 5 (浜松) 中部 6 (岐阜) 中部 13 (桃花台) 四国 4 (ことでん)	北海 1 (当別) 東北 2 (八戸) 東北 3 (北上) 東北 8 (秋田) 関東 1 (育児圏) 関東 3 (北杜) 関東 9 (前橋) 関東 13 (土浦) 北陸 4 (安曇野) 北陸 5 (伊那) 北陸 6 (上田) 中国 3 (倉敷) 中国 4 (若桜谷) 四国 6 (丸亀) 沖縄 1 (竹富) 沖縄 3 (名護)	北海 4 (二セコ) 東北 6 (いわき) 東北 7 (福島) 北陸 2 (佐渡) 北陸 3 (東北信) 中部 10 (伊東) 中部 11 (名古屋観光) 近畿 9 (六甲) 中国 6 (秋吉台) 四国 1 (四国西南部) 四国 3 (高知東部) 九州 3 (全九州) 九州 5 (長期滞在) 九州 7 (鹿児島中央)	東北 1 (フェリー)
③TDM関係	関東 6 (朝霞 MM) 関東 8 (カーニア) 関東 16 (秦野 MM) 中部 12 (亀山 MM) 近畿 5 (和歌山 21) 近畿 6 (京都 MM) 近畿 10 (和泉 MM) 神戸 2 (神戸港)	九州 1 (天神) 九州 6 (日田 MM)	北海 6 (摩周湖) 関東 7 (川越) * 関東 12 (秩父) 北陸 1 (新潟スガヤマ) 近畿 1 (吉野山) 近畿 4 (大津) 中国 1 (石見銀山)	
④航空関係			北海 5 (周遊航空) 中部 7 (中部空港)	
⑤海上関係		関東 14 (水陸両用)	関東 7 (川越) * 中国 8 (長距離フェリー) 九州 8 (釜山)	中部 8 (名古屋港) 神戸 1 (高松航路) 九州 4 (喜界航路)
⑥その他 (周遊バス、ICカード、バリアフリーボランティアなど)	近畿 3 (三ノ宮) 近畿 7 (阪神都市圏) 近畿 8 (西宮)	東北 5 (バリフリ) 関東 10 (企画 IC) 関東 11 (バリフリ) 北陸 7 (金沢) 北陸 8 (バリフリ) 中国 7 (マニュアル) 四国 2 (バリフリ)	北海 2 (札幌) 関東 7 (川越) * 中部 9 (バリフリ) 近畿 2 (バリフリ) 中国 5 (広島) 四国 5 (しまなみ) 沖縄 2 (那覇観光)	

※案件名称は巻末の参考資料を参照してください。 \*は複数内容が対象のプロジェクトを示しています。

■平成 18 年度案件で対象とした基盤（施策）

対象とした基盤（施策）から傾向をみると、軌道やバス関係のプロジェクトは、公共交通サービスの維持に対する要請から全国各地で実施されていますが、TDM関係のプロジェクトは都市部や観光地を中心に実施されています。

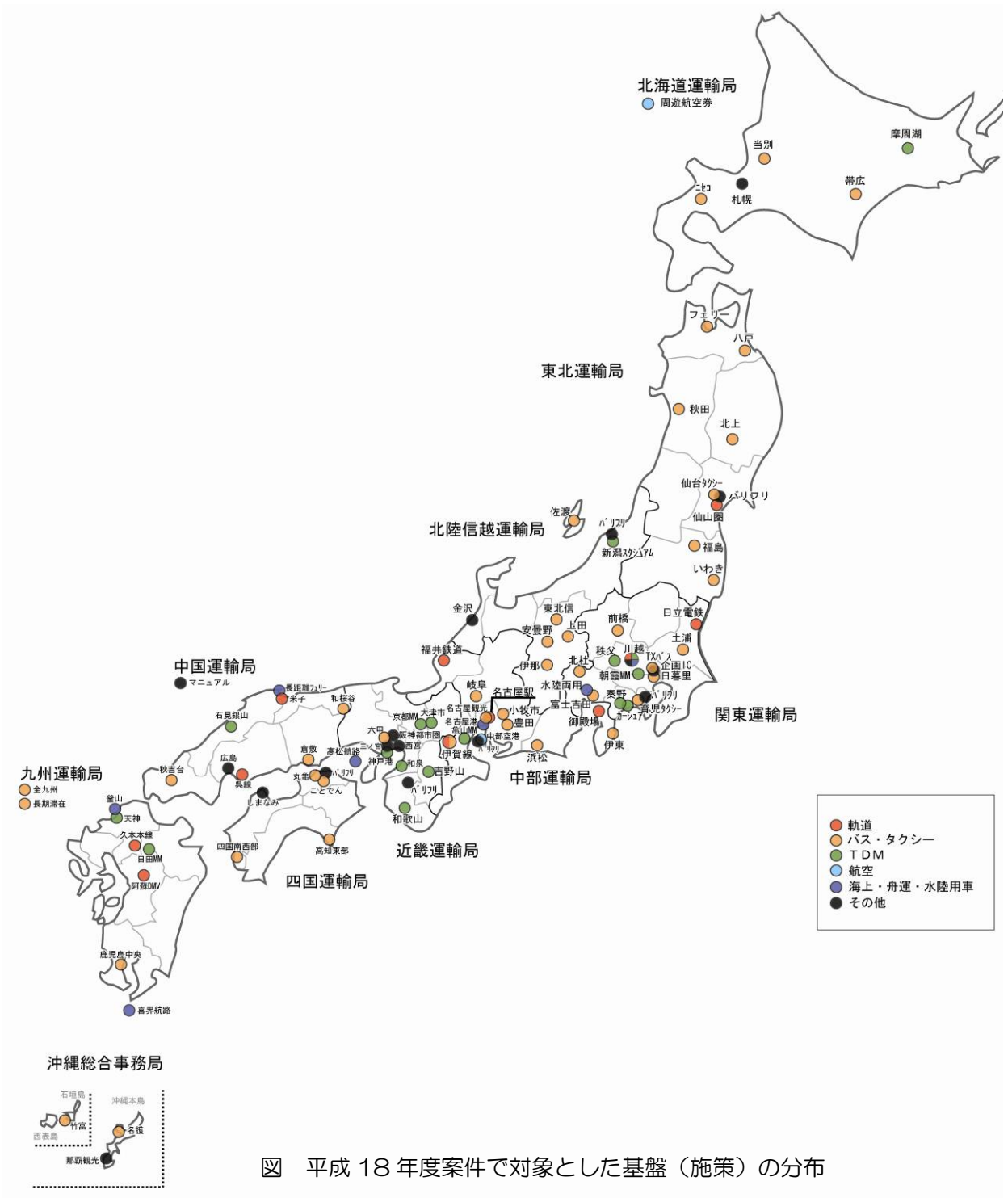
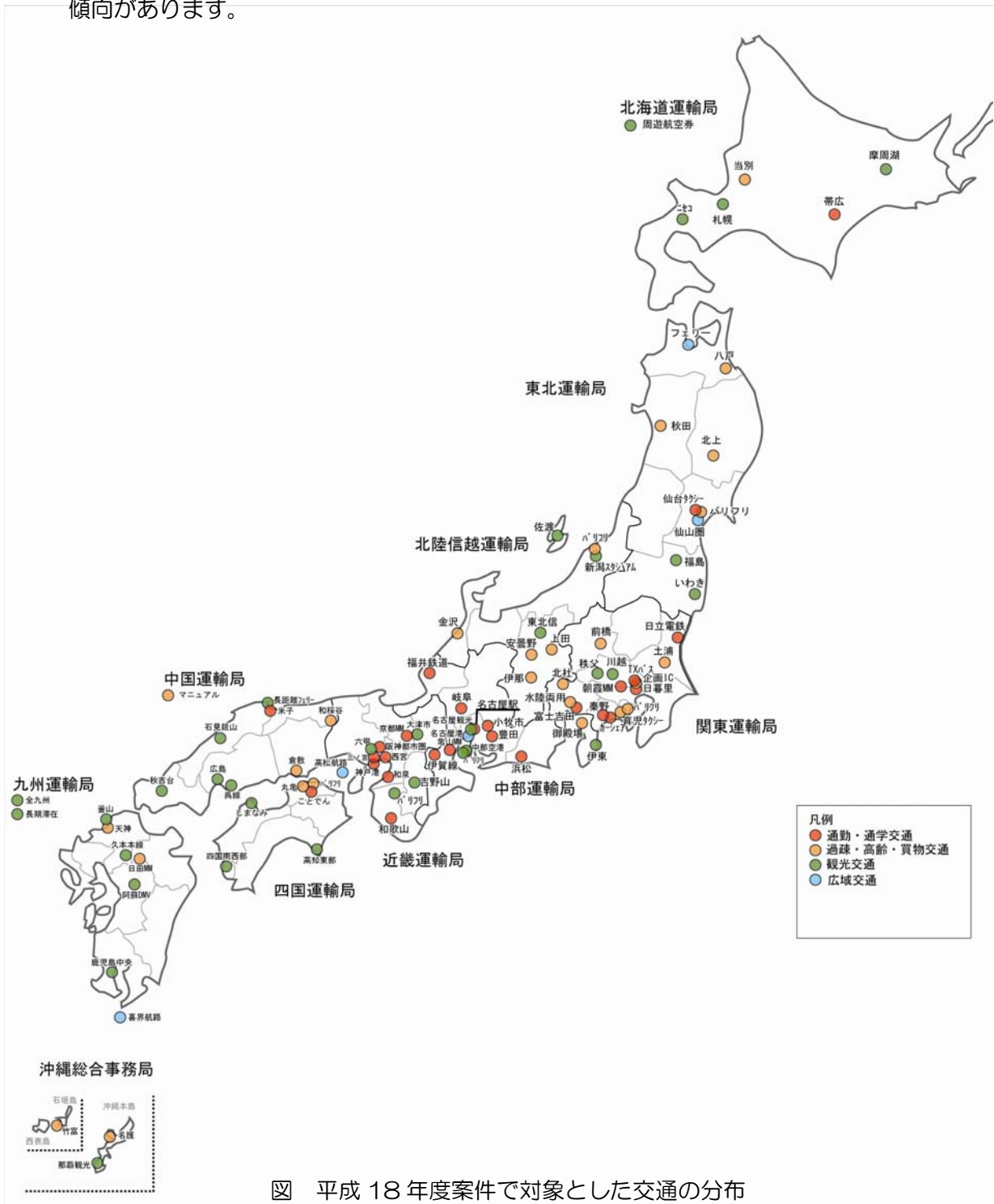


図 平成 18 年度案件で対象とした基盤（施策）の分布

■平成 18 年度案件で対象とした交通

通勤・通学交通を対象とするプロジェクトは大都市圏で実施された案件が多く、過疎・高齢・買物交通や観光交通を対象とするプロジェクトは全国各地で実施されている傾向があります。





### 3 公共交通活性化総合プログラムの実施事例

ここでは、全国で平成18年度に実施された公共交通活性化総合プログラムの中から、取組みや成果に特徴がみられる事例を紹介します。

事例は、プロジェクトが対象とした交通（過疎・高齢・買物交通、通勤・通学交通、観光交通、広域交通）を切り口にして、以下の9事例を紹介しています。

表 事例の対象としたプロジェクト

	プロジェクト名称
事例1	当別町コミュニティバス実証運行に係る利用動態検討プロジェクト
事例2	北海道遺産・摩周湖におけるエコ交通整備検討に関する調査
事例3	NPOによる「まちづくり活性化バス」の利用促進策の策定
事例4	長野県安曇野地域における公共交通システム構築プロジェクト
事例5	近畿日本鉄道・伊賀線の利用促進とバス交通の再編に関する調査
事例6	三ノ宮周辺における公共交通乗継円滑化関連調査
事例7	阪神都市圏におけるバス利用促進プログラム
事例8	世界遺産吉野山観桜期トップシーズンにおける交通アクセス改善プログラム
事例9	秋吉台エリアにおける生活交通利用促進のための地域交通検討プロジェクト



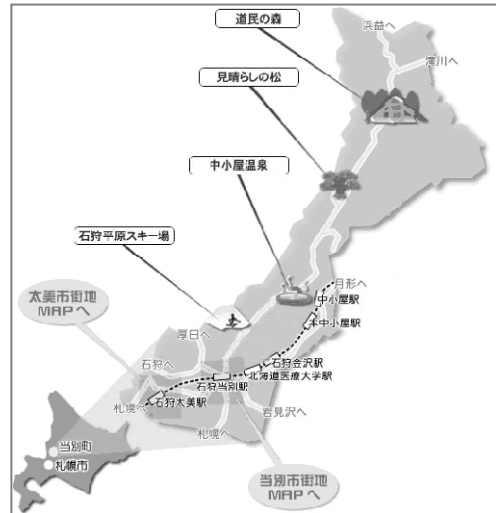
図 平成18年度案件で対象とした事例の分布

## 事例1 当別町コミュニティバス実証運行に係る利用動態検討プロジェクト

### ①プロジェクトの概要

当別町では、平成17年度に当別町バス交通体系調査事業を実施し、民間バス、スクールバス、福祉バス等の一元化によるバス交通体系のあり方と課題、対応する対策を明らかにしていた。これを受け、当別町は平成18年4月より、低コストで利便性が高いバス路線の実現を目指した実証実験を開始した。

活プロでは、この実証運行による利用動態、問題点に関する調査を行い、平成19年度の本格運行に向けた改善策、および利用促進策について検討を行った。



出典：当別町 HP

### ②実証実験における調査の概要

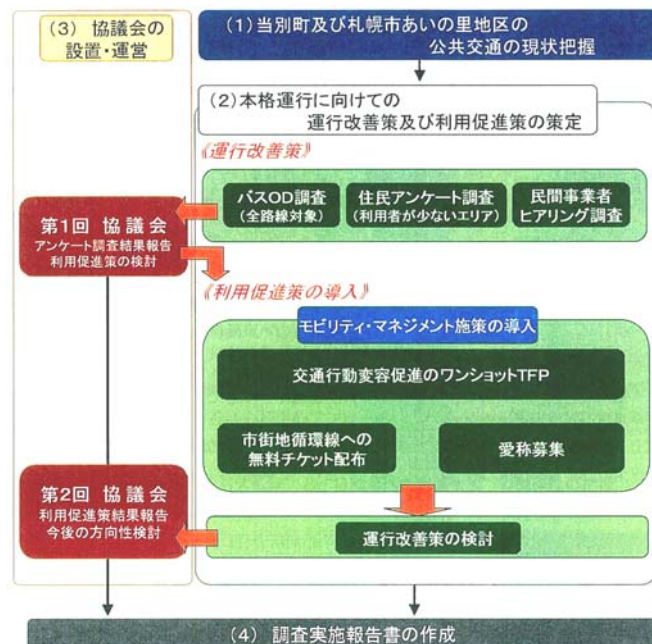
実証実験時に実施した調査は、利用実態調査やモビリティマネジメントなど、各検討段階で様々な取り組みが実施された。

#### <運行改善策検討のための調査>

- バス利用実態を把握するOD調査
- 実証実験参加事業者ニーズを把握するためのヒアリング調査
- バス利用が少ないエリア住民のニーズを把握するための住民アンケート調査

#### <利用促進策導入のための調査>

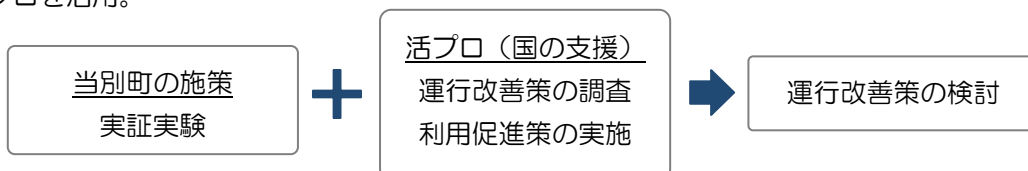
- 交通行動変容促進のTFP実施
- マイバス意識を高めるためのバス愛称募集
- 公共交通利用のきっかけづくりを目的とした無料チケット配布



### ③プロジェクトの特徴

#### ■当別町の調査事業に活プロを上手く活用

当別町が検討を行っていたバス交通体系調査を受けた実証実験事業では、実態調査の部分に活プロを活用。

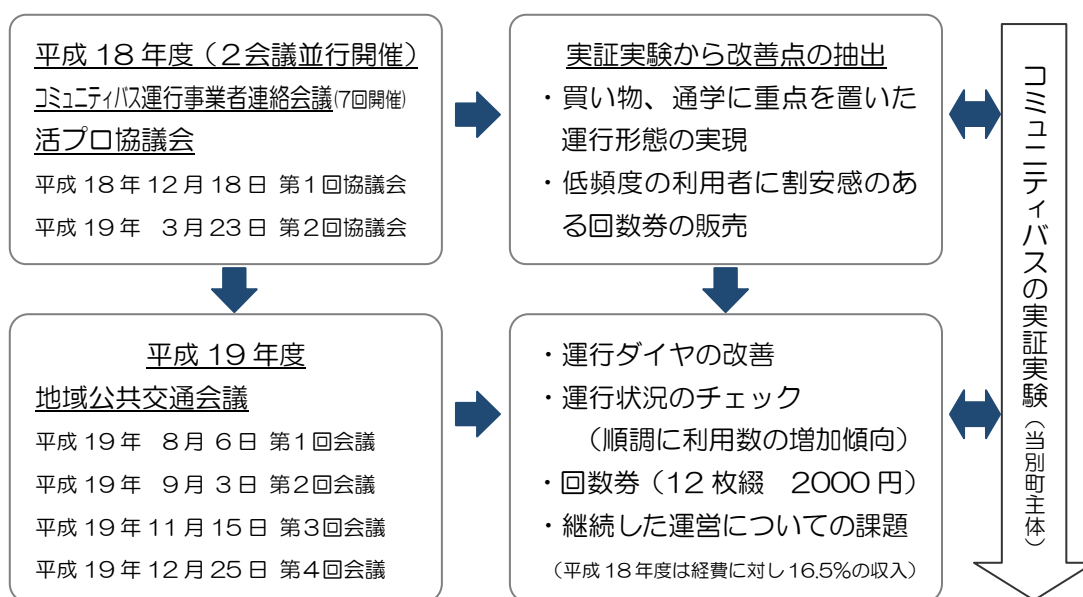


#### ■民間事業者と町が熱意をもって運行の一元化を実施

民間事業者と町の4者が上手く協力して、地域密着性、持続可能性のある官民共同運行に取組んだ。



#### ■当別町で地域公共交通会議が開催され、本格運行に関する協議も進行



## 事例2 北海道遺産・摩周湖におけるエコ交通整備検討に関する調査

### ①プロジェクトの概要

摩周湖は、我が国の貴重な自然環境資源であると同時に、弟子屈町にとっては、重要な観光資源でもある。かつて透明度41.6mと世界一を誇ってきたが、近年は低下してきている。

摩周湖展望台を訪れる乗用車やバスは多い日には3,000台以上を数え、そのほとんどが乗用車によるアクセスであり、町の調査によると昼間の大気中有害物質の量は市街地よりも展望台周辺の方が多く、環境負荷の観点から見ると、自動車交通の影響は大きいものと考えられる。



本調査は、地域の重要な観光資源である摩周湖の適正な保護・監理と健全な活用の共生方策を探り、次世代につなぐ地域の持続発展システムの検討と一体的に、摩周湖周辺における環境負荷を最小限に抑える新たな交通方策について検討することを目的とする。

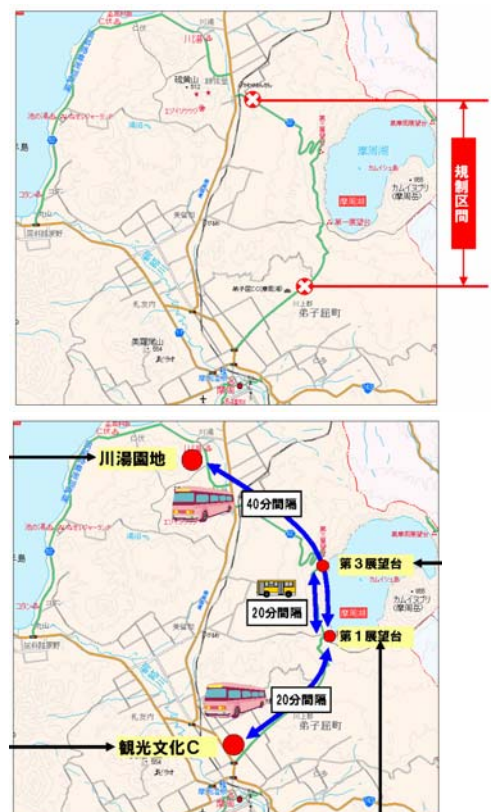
### ②調査の概要

平成18年度調査では、7月29日～8月26日の間、弟子屈町への来訪旅行者を対象に「観光意識調査」を実施し、交通問題と課題の整理を行い、摩周湖展望台への自動車乗り入れ規制への賛否、代替交通機関への乗り換え方策への賛否、その際の支払い限度額などについて把握した。

このアンケート結果をもとに、平成19年度の実証実験案を策定した。摩周湖へアクセスする道路への自家用車及びレンタカーの乗り入れ規制、および3区間毎のピストン運行を行う代替バスへの乗り換え誘導施策である。

実験は平成19年6月11日～17日の1週間、8:00～17:00の間で、代替バスは1人500円（高校生以下または18歳未満無料）とした。

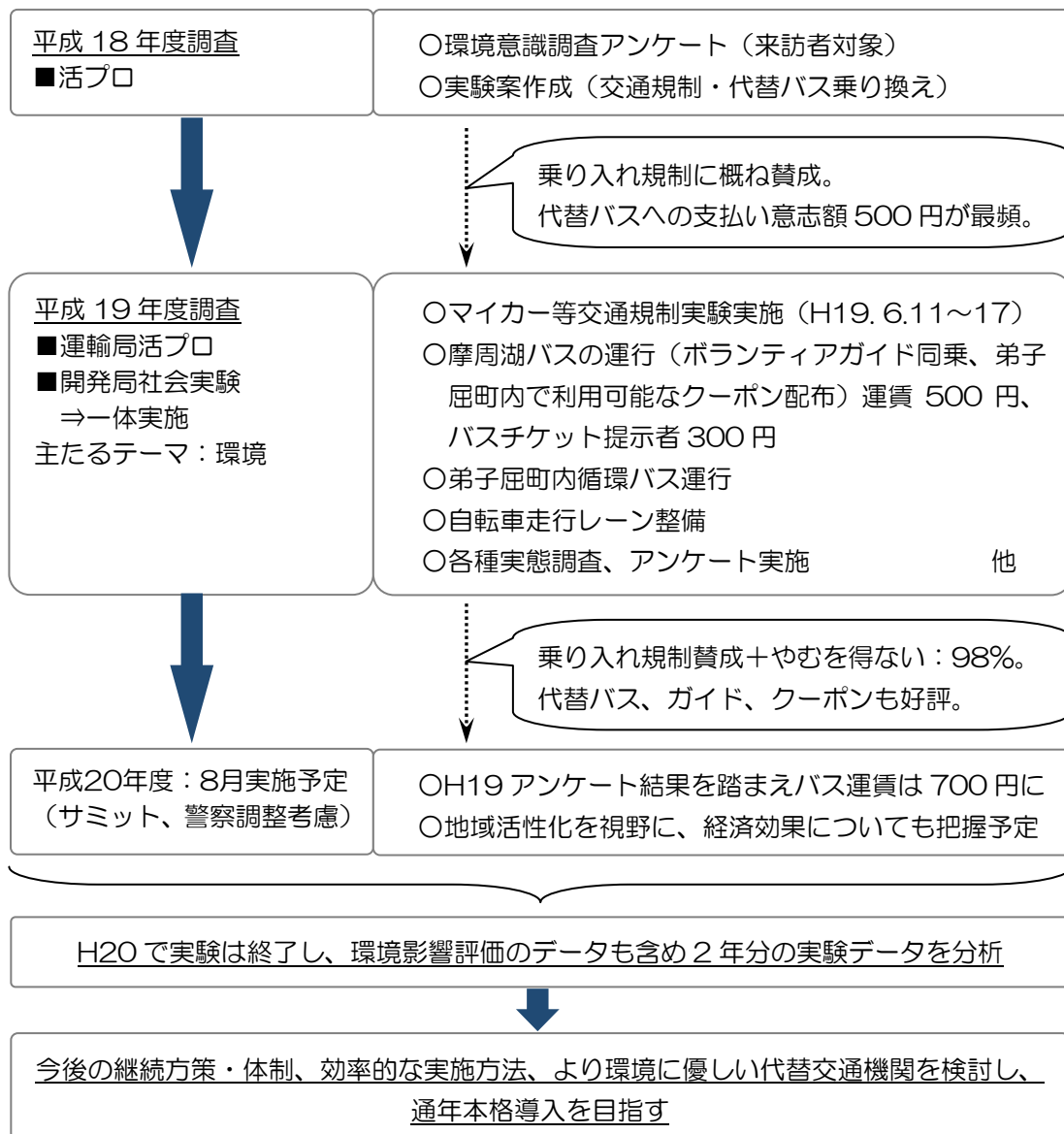
この実験と合わせて実施すべく、屈斜路循環バスや自転車走行レーン確保などを図る国交省道路局にも社会実験を申請した。





### ③プロジェクトの特徴

#### ■ 3ヶ年を計画・施策の検証期間として当初から継続実施を意識して推進



#### ■ 観光地の混雑緩和ではなく、環境保全を第一目的とした我が国初の交通規制

##### 『環境保全』を第一目的とする我が国初の交通規制

- 摩周湖という町の貴重な環境資源を守っていかなければ、観光産業どころか活性化にもつながらない。町の経済も立ちゆかなくなる。
- 行政だけでなく、町民ボランティア、関係スタッフが共通の目的意識をもって協力しなければ実現しない。役場職員による地道な話し合いにより、反対者を説得し、実験実施可能に。
- H20 年度実験に先駆け、「環境保全に関する事業」への寄付条例を策定し、資金確保につなげている。

## 事例3 NPOによる「まちづくり活性化バス」の利用促進策の策定

### ①プロジェクトの概要

土浦市では、高齢化社会と環境問題等に配慮したバス運行を目的に、地域住民や商業者が自ら運行主体となってNPO法人が設立され、平成19年度からの本格運行をめざし平成17年3月から「まちづくり活性化バス」を実証運行しており、新たなデマンド交通システムによる乗合タクシーの運行も平成18年10月から開始された。

活プロでは、これら公共交通機関を総合的に情報提供し、さらに利用しやすい地域の足とするため、利便性の向上及び利用促進を図るための具体的方策を検討した。



出典：NPO法人まちづくり活性化土浦 HP

### ②実証実験内容

#### ○まちづくり活性化バス

土浦市内を3循環しており、1回乗車100円で乗車することができる。

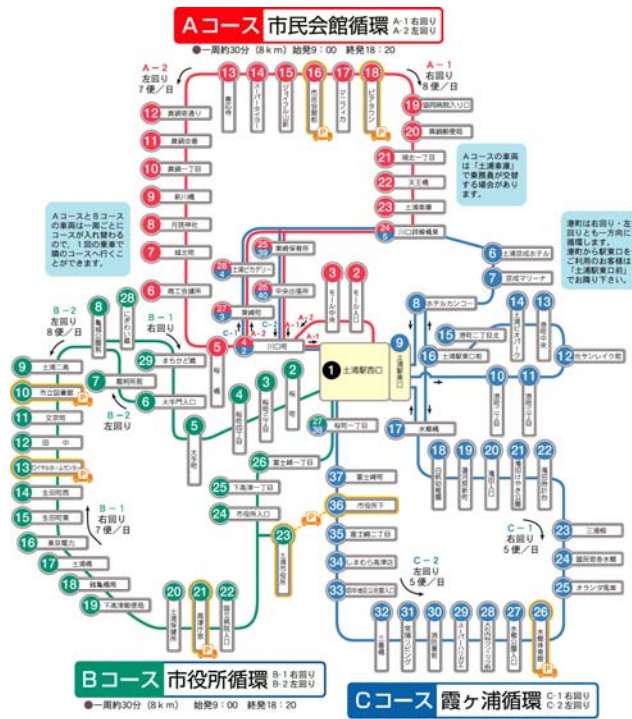
#### ○ボランティアによるバスの乗客への支援・案内

○地域通貨との連携(バス利用者が協賛店で買物をした場合、1000円で100円分の地域通貨がもらえる)

#### ○パーク・アンド・バスライドの実施

#### ○のりあいタクシー

1回500円で目標会員は500名であったが、試験運行開始から2ヶ月時点で80名に留まっている。



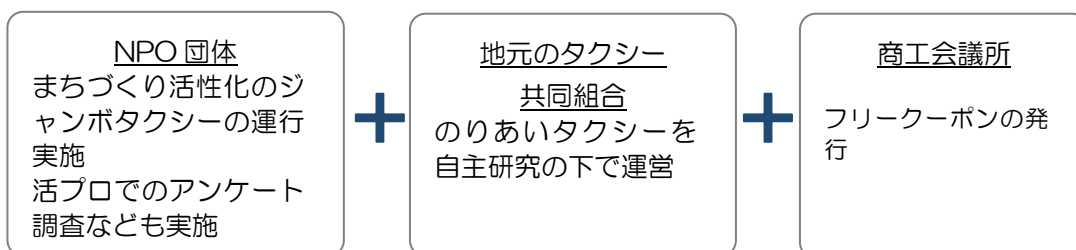
### ③プロジェクトの特徴

#### ■様々な関係者が検討会に参画

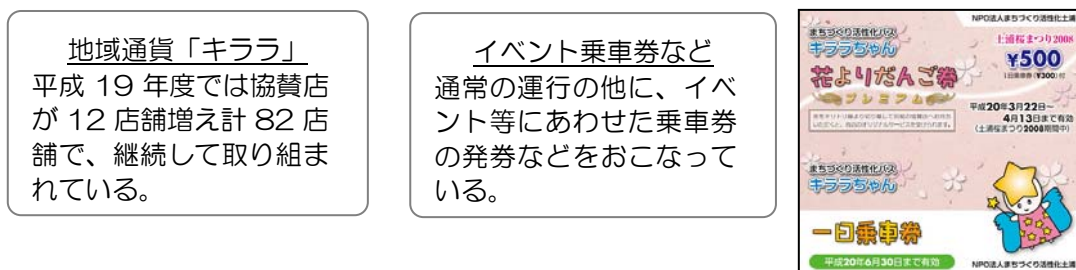
##### 参画メンバー

土浦商工会議所、茨城県、NPO 法人まちづくり活性化バス土浦、土浦女性団体協議会、ボランティア代表、社団法人バス協会、茨城県ハイヤー協会、関東鉄道株式会社、土浦地区タクシー共同組合、土浦市、運輸局

#### ■活性化に向け地元NPO団体、共同組合、商工会議所が主体的に活動

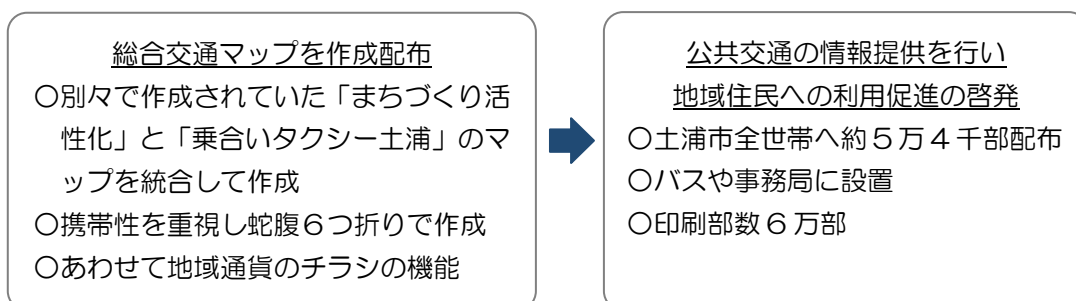


#### ■商工会議所、NPO法人等を中心に継続的な取組みが行われている。



出典：NPO 法人まちづくり活性化土浦 HP

#### ■まちづくり活性化バスと乗合タクシー土浦の総合交通マップを全戸に配布



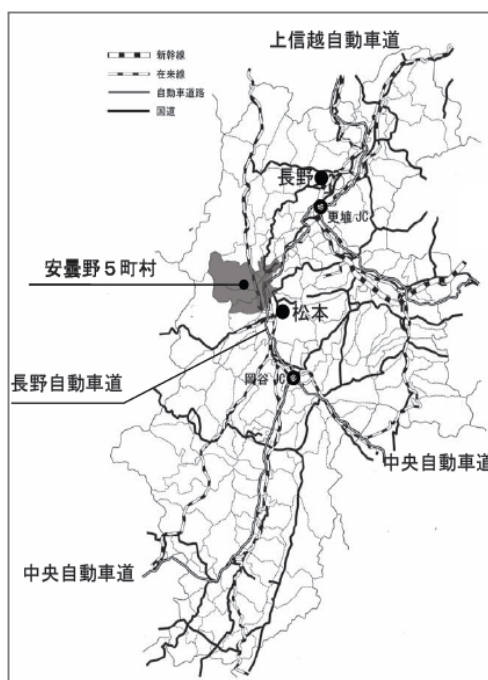
## 事例4 長野県安曇野地域における公共交通システム構築プロジェクト

### ①プロジェクトの概要

長野県安曇野市は、平成17年に3町2村が合併して誕生したが、市内の公共交通機関は合併前の各市町村がそれぞれ独自に住民バス、福祉バス、デマンドタクシー等の運行や外出支援事業としてタクシー初乗り料金補助などを行っているため、地域間でのサービス格差や連携不足などに対応し、且つ観光交通への対応も視野に入れた公共交通システムの確立が課題となっていた。

そこで本事業では、運輸局と安曇野市が協力し、地域の現状調査、アンケート調査、ワークショップ開催を通してニーズを把握し、バランス良く課題解決するための交通システムの検討を実施した。

この結果を受け、安曇野市ではH19年9月からデマンド交通を中心とした新・公共交通システム『あづみん』が試行運行を開始している。



### ②新・公共交通システムの概要

安曇野市の新・公共交通システムは、ニーズに合わせて3種類で構成されている。

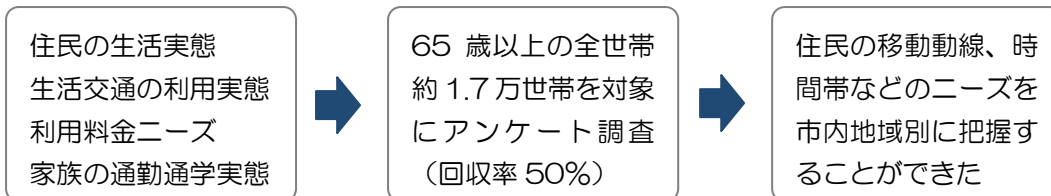
- 原則全市内で運行する「デマンド交通」 指定の場所から目的地まで乗り合い方式で運行
- 決まった時間に決まった路線で運行する「定時定路線」 朝夕の通勤通学時間に運行
- 堀金地域で運行されている「ナイトライン」 電車で帰宅する堀金地域の皆さん向け

 6:40~8:00ころ <b>定時定路線</b> 穂高駅~明科駅 豊科駅~田沢駅	 8:00~17:00 <b>デマンド交通</b> 市内全域 ※一部地域を除く (13:00~14:00は運休)	 17:30~19:30ころ <b>定時定路線</b> 穂高駅~明科駅 豊科駅~田沢駅 17:30~21:00ころ <b>ナイトライン</b> 豊科駅~堀金地域
--	---	--

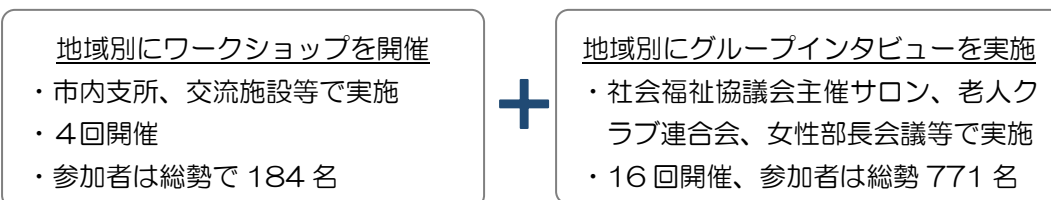


### ③プロジェクトの特徴

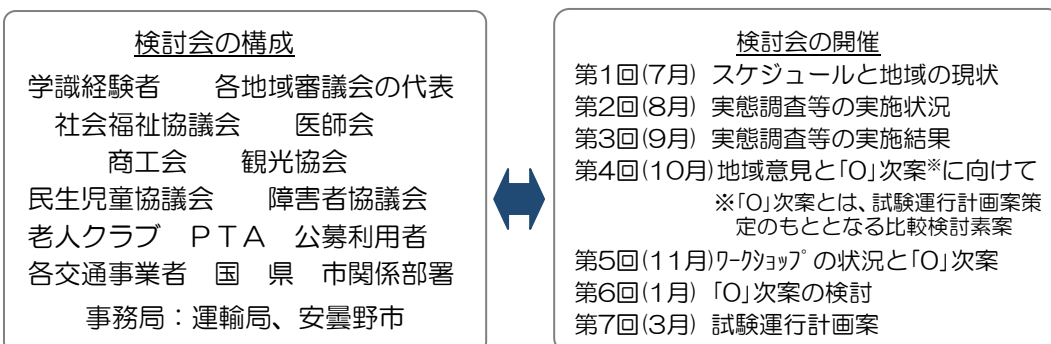
#### ■65歳以上の全世帯を対象に住民ニーズ調査を実施



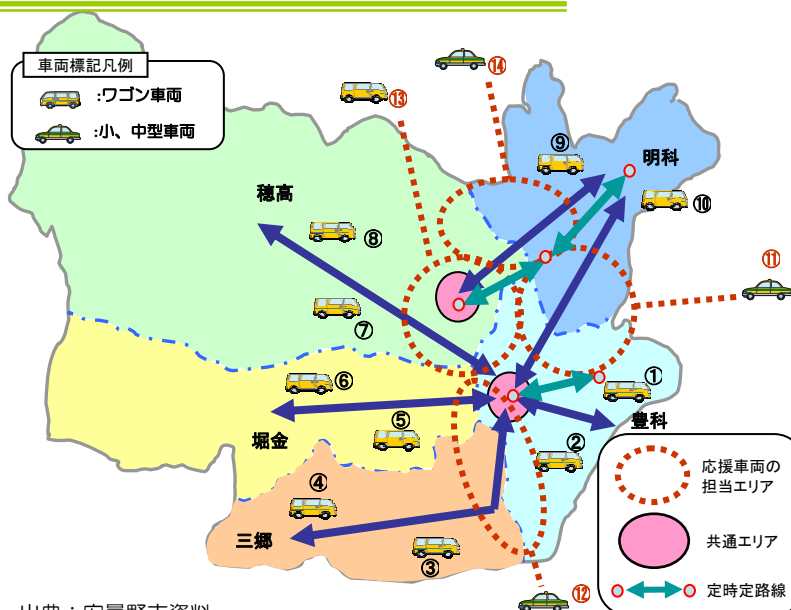
#### ■総勢約1000名を対象にワークショップやインタビュー等を実施



#### ■多くの関係者が参画し、ほぼ毎月検討会を開催



#### 安曇野市 新・公共交通システムにおける車両配置イメージ



出典：安曇野市資料

## 事例5 伊賀線の利用促進に併せた伊賀市の公共交通ネットワーク整備調査

### ①プロジェクトの概要

三重県伊賀市は、平成16年に6市町村が合併したが、各支所で運行されている行政バスは、合併前の各市町村独自のサービス水準を維持しており、市域内でのサービス不均衡是正が課題となっていた。

また、伊賀市内には近鉄大阪線やJR関西本線などがあるが、特に市内を縦断している近鉄伊賀線（現、伊賀鉄道）は市民の重要な生活交通手段でありながら、輸送人員の大幅な減少や施設老朽化により維持継続が重要な課題となっている。

そこで本事業では、運輸局と伊賀市が協力し、地域特性に応じた持続可能な交通体系の構築をめざした伊賀市交通計画を策定した。

この結果を受け、伊賀市ではH19年度より順次具体的な施策が実施されている。



出典：伊賀市HP

### ②伊賀市交通計画の概要

平成17年に「鉄道に関する市民アンケート調査」を実施し、交通問題と課題の整理を行い交通政策具体化の指針を出した。

#### 具体的な指針

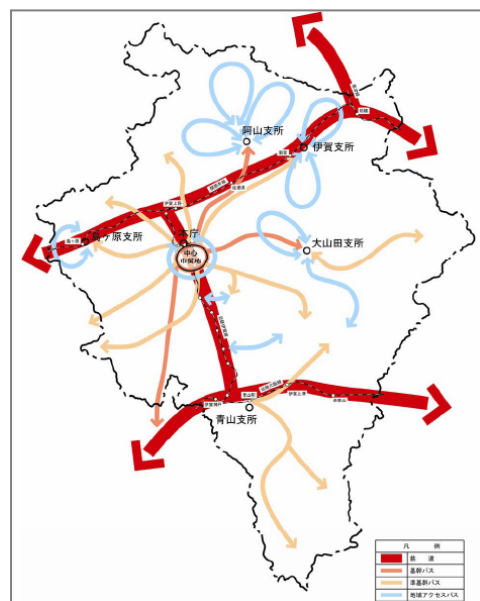
- ・自動車交通の適正化
- ・公共交通の利用促進
- ・生活交通の確保



#### 重点施策のアクションプランを策定

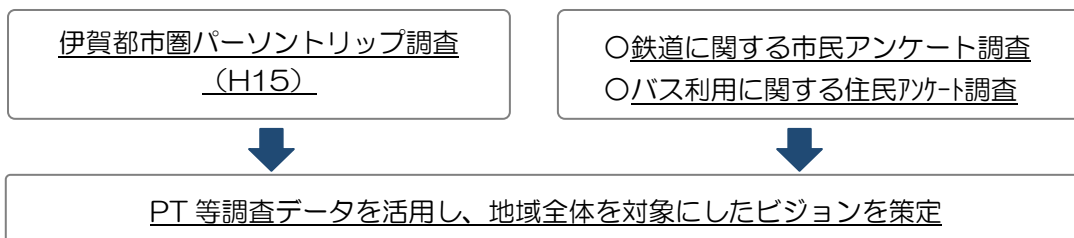
- ・バス路線の適正化(ダイヤ改正・ルート変更)
- ・柘植本線の系統を追加
- ・鉄道の運営支援、利用支援の実施
- ・車両更新を支援

等

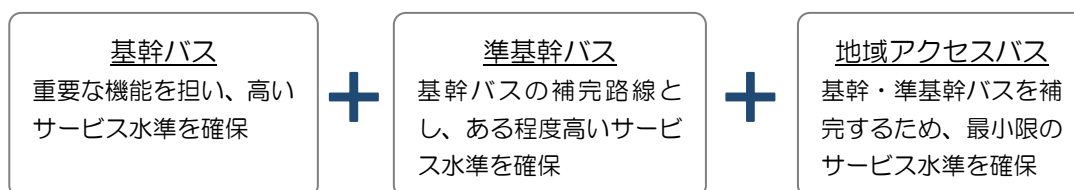


### ③プロジェクトの特徴

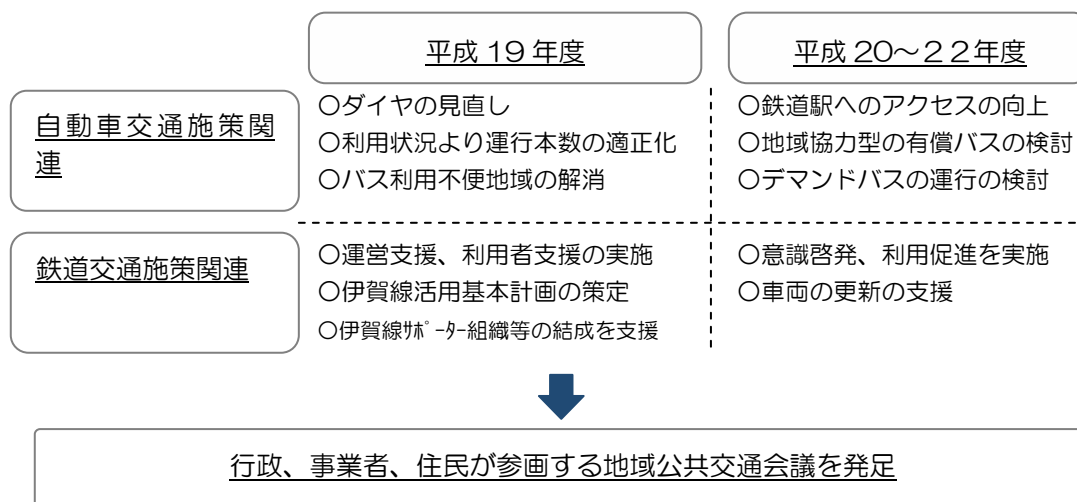
#### ■PT調査等を活用して全体ビジョンを策定



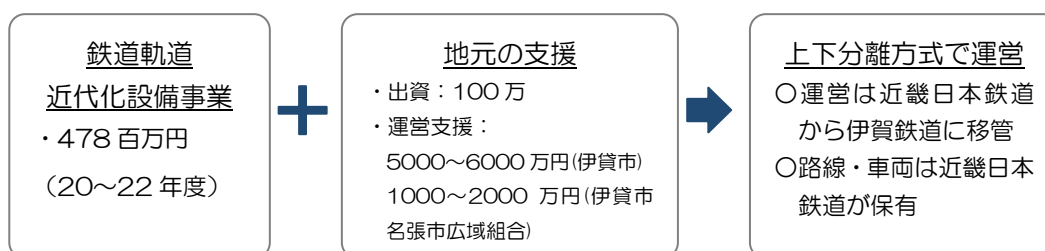
#### ■計画に盛り込まれたバスに関する施策が具体的であり実際に進展



#### ■踏み込んだアクションプランの提案し地域公共交通会議が発足



#### ■計画を受け伊賀線は上下分離方式が採用され運営に対する支援も進展



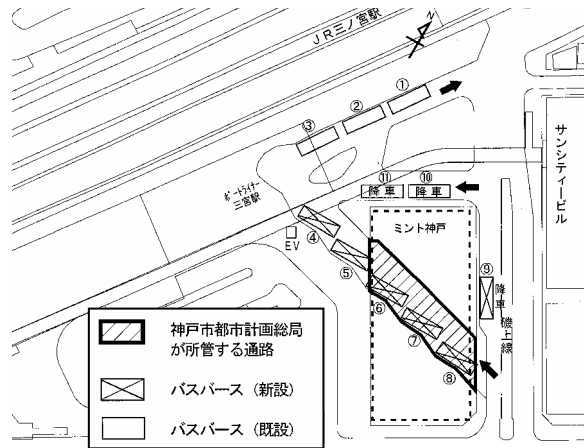
## 事例6 三ノ宮周辺における公共交通乗継円滑化関連調査

### ①プロジェクトの概要

神戸市のJR三ノ宮駅周辺は政令指定都市の中心ターミナルであるが、駅前には大きな交差点があり、約40社のバス会社がバラバラに停留所を構えていることなどから、バス利用者にとって利用しづらい状況であった。

そこで、地元行政・交通事業者・国等が連携を図り、公共交通整備のあり方を検討し、平成17年に「三ノ宮駅周辺における公共交通乗継円滑化検討会議」を立ち上げ、流動実態調査やインフォメーションに寄せられた苦情リストを検証し、バス乗り場マップと総合バス時刻表の作成、配布を実施した。

これを踏まえ、平成18年度は過年度実施内容の成果と課題を検証し、関係者の共通の理解を進めながら、バスマップの更新やポータルサイトの設置、さらにはモビリティセンターの検討を行った。



### ②ポータルサイトの概要

ポータルサイトは、WEB上においてバス情報やバス乗場へのルートなどを判り易く案内する“総合案内板”の機能を持ち、『目的地のあいまい検索』『施設検索』『路線検索』などで検索が可能となっている。

#### ポータルサイト画面

検索入口 (TOP 画面)



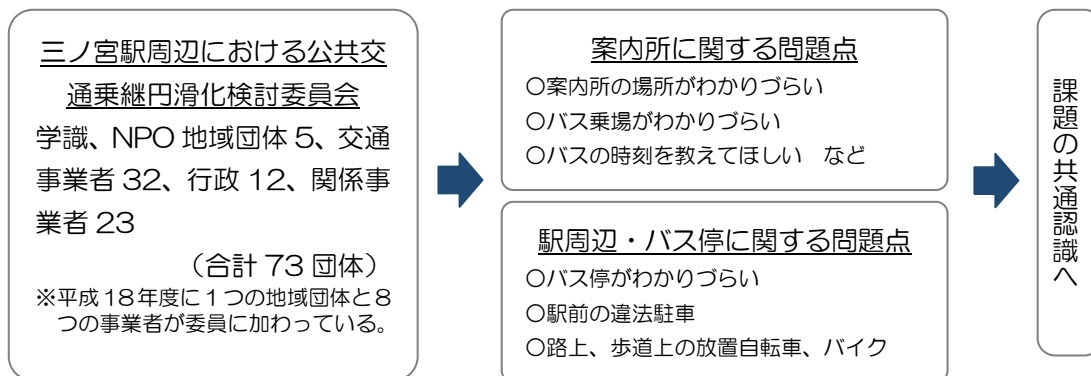
運行候補情報



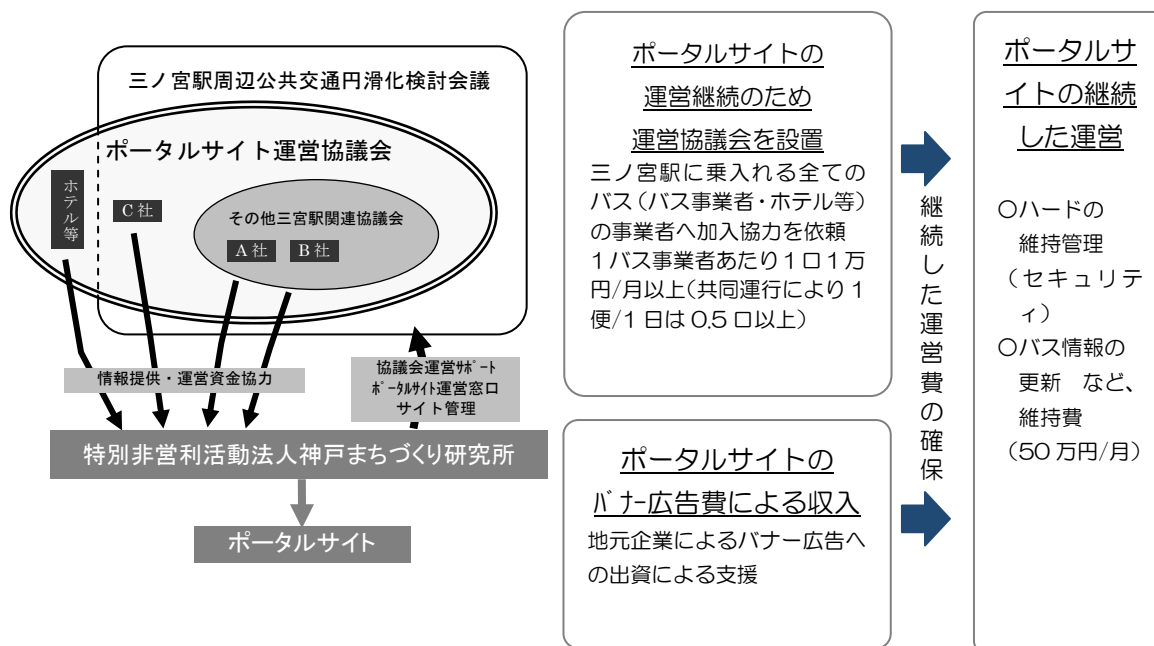
乗場情報

### ③プロジェクトの特徴

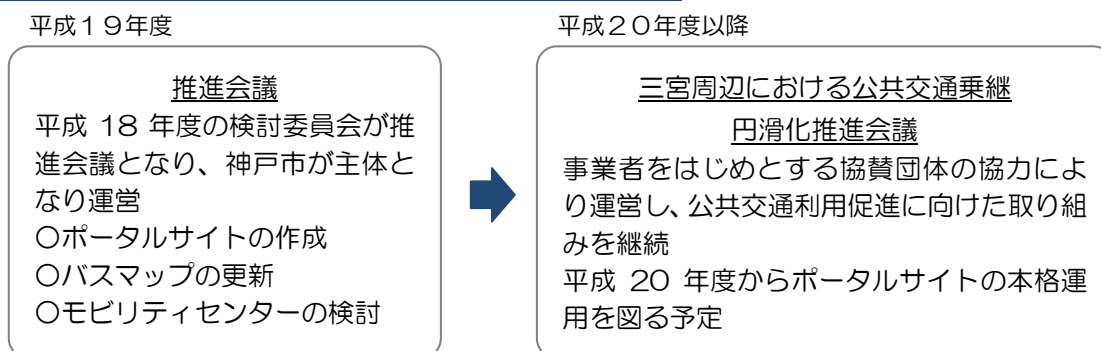
#### ■多くの関係者が参加し課題を共有認識



#### ■継続して運営できるポータルサイトの仕組みの構築



#### ■H19年度以降も地元の熱意で目標と推進体制を計画





## 事例7 阪神都市圏におけるバス利用促進プログラム

### ①プロジェクトの概要

阪神間7市1町（人口約170万人）からなる阪神都市圏では、民営・公営あわせて8社の事業者によりバスが運行されているが、阪神北県民局管内4市1町を対象に平成14年8月に「阪神北地域の望ましい公共交通のあり方」県民アンケートを実施した結果、県民からは路線バスに対する利用のしにくさが数多く指摘された。

そこで、利用者の視点に立ち地域のNPOと連携してバスマップを作成し、バスの利便性向上を図った。具体的には、平成17年度より都市圏内バス路線、停留所に関する現状調査を実施し、18年3月にバスマップのサンプル版を作成し、主に鉄道利用不便地域の住民に無償配布してアンケート調査により利用者意見を収集した。

これをふまえ、18年度には掲載情報の精査を行い、初版バスマップを完成、阪神都市圏の鉄道駅での配布を行うとともに、地域のNPOが紙版では表現できない詳細な情報も掲載したWeb版バスマップを構築し、あわせて持続可能な公共交通利用促進のための取り組み体制を検討した。

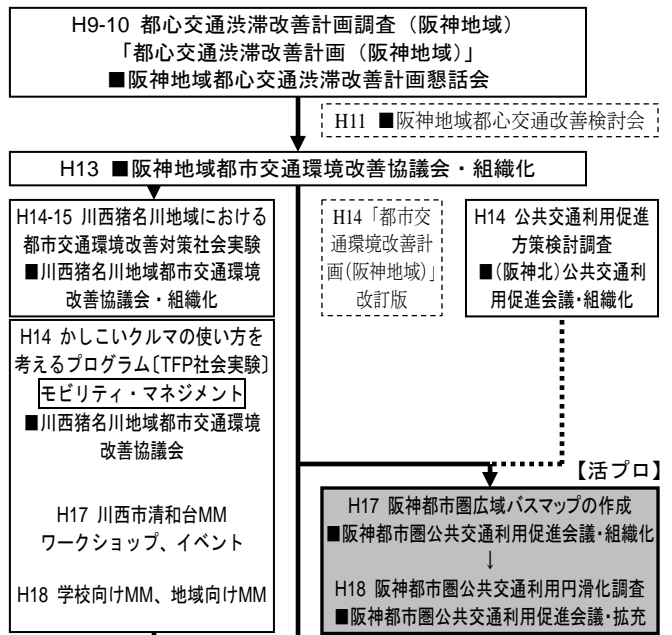
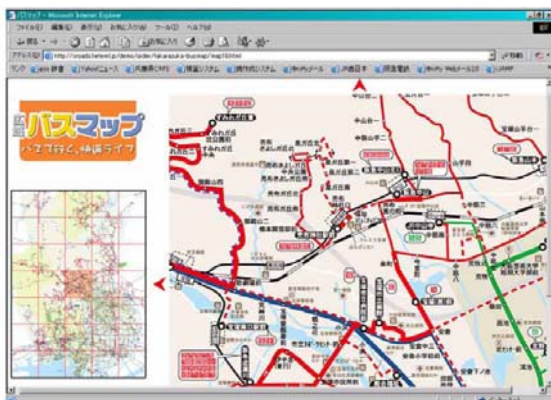


図 公共交通利用促進に対する取組みの流れ  
(兵庫県資料より作成)

### ②Web版バスマップ (<http://hnpo.net/n/busmap/>)・バスマップブログの概要

Web版バスマップとバスマップブログは宝塚NPOセンターによって一体的に運用されており、紙版バスマップとリンクしている。Web版バスマップで検索すると、すべてのバス停に関する情報がブログの記事として、地域情報とともに紹介されている。

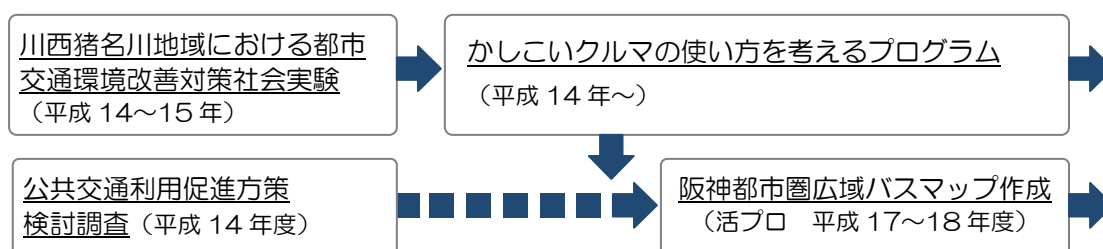


### ③プロジェクトの特徴

#### ■地域の TDM 施策、MM 施策への継続的な取り組みの中で活プロを活用

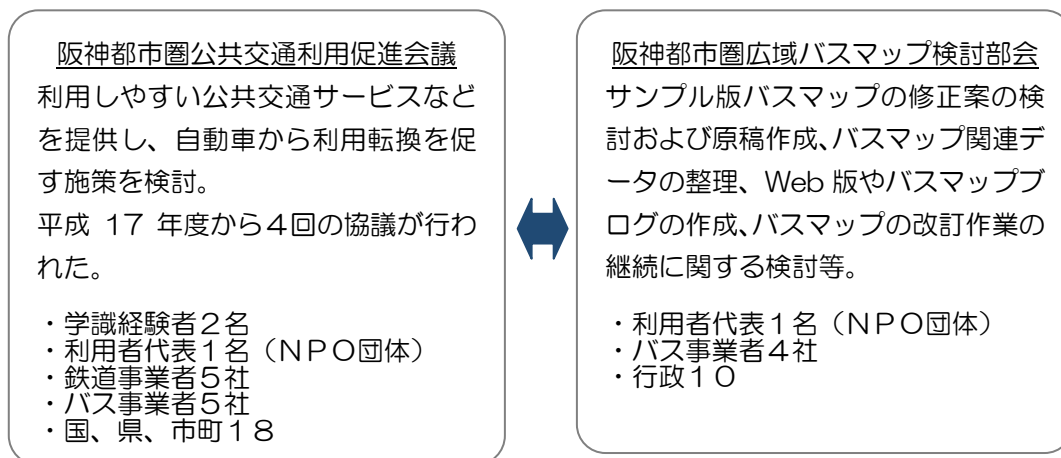
平成14年度の川西猪名川地域におけるTDM施策検討調査以降、継続的に同地域においてモビリティ・マネジメント施策に取り組んできたが、その際にも公共交通、特にバスに関する情報提供の必要性が指摘されていた。

この課題にも対応でき、かつ公共交通利用促進方策検討を受け、対象を阪神都市圏全域に拡大して、平成17年度から活プロを活用し広域バスマップ作成にとりかかることとなった。



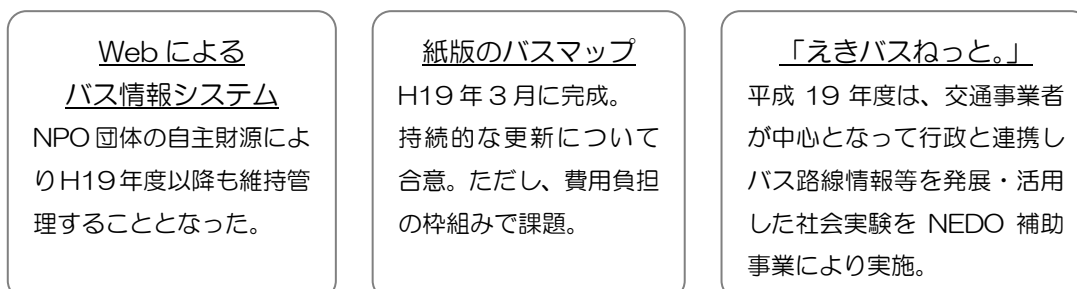
#### ■都市圏内の交通に関わる全機関の参画、協力体制を構築

事務局となった北泉民局職員が積極的に働きかけを行った。



#### ■継続にむけた積極的な動き

19年度以降は、バスマップの運営・管理はNPO法人で行われていく。また、NEDO補助事業を利用した「えきバスねっと。」も実施。



## 事例8 吉野山観桜期トップシーズンにおける交通アクセス改善プログラム

### ①プロジェクトの概要

奈良県吉野町には関西随一の桜の名所の吉野山があり、観桜のピーク時にはアクセス道路の渋滞をはじめ、多くの観光客の集中によりゴミやトイレの問題などが生じている。さらに平成16年度の世界遺産登録を契機に観光客は増加し、こうした問題に拍車をかけた。

さらに、吉野山の景観・環境保全や桜の維持管理にかかる経費、また、パーク&バスライドを実施するにあたってかかる運営費や、実施体制等に課題が残っていた。

活プロでは平成17年にP&BRにおけるヒアリング調査や利用調査、自家用車来訪台数調査を行い現状の把握を実施、またさらなる対応策について検討した。これを受けて、平成18年では、前年度における対応策を実施し、その効果と持続的に取組める体制やシステムづくりについて実証実験を行った。



出典：吉野町 HP

### ②実施概要

本施策では、平成7年度から行われてきたP&BRにあわせた改善策の実施等、以下の施策を実施した。

#### ○パーク&バスライド

平成17年度に検討した交通対策の実施計画に基づき、平成18年度では観光バス予約制度や交通対策・環境保全のための協力金徴収といった対策を実施した。

#### ○実態調査

- 交通対策の効果検証のため基礎情報収集
- ・P&BRの利用状況・観光バス予約制の実施状況
- ・アクセス道路の混雑状況

#### ○問題把握と解決すべき課題の整理

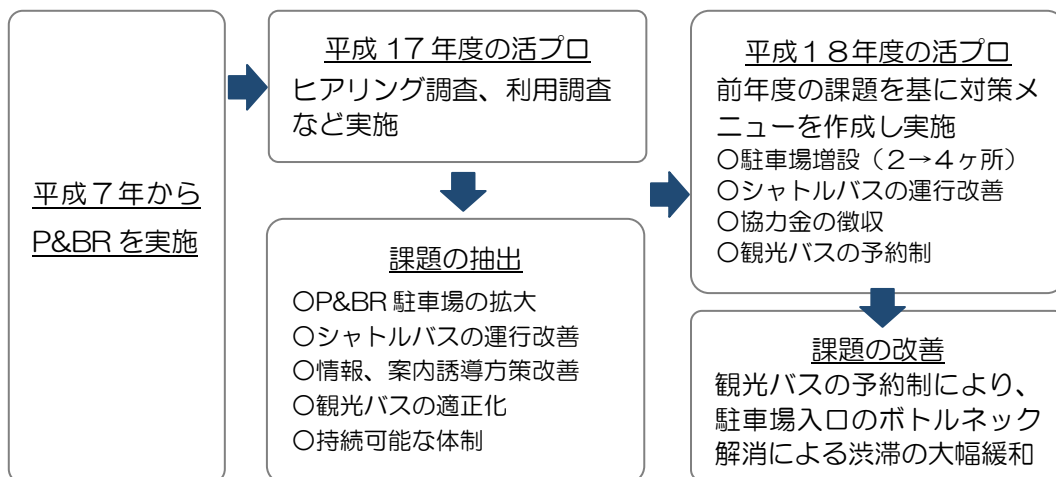
#### ○次年度以降の改善策の検討



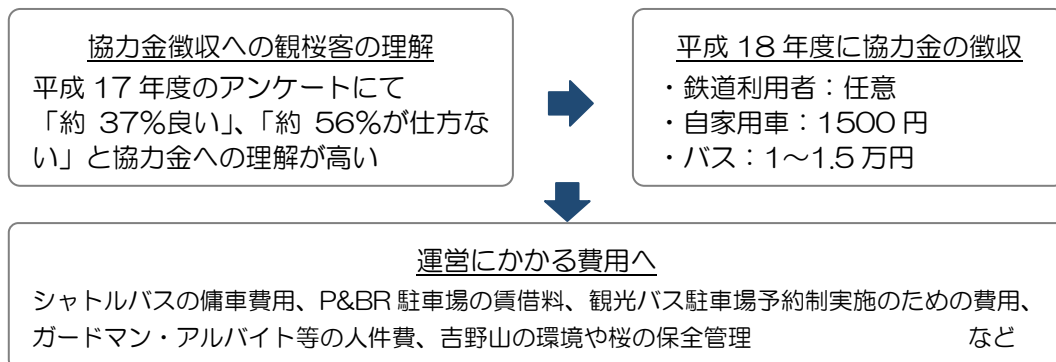


### ③プロジェクトの特徴

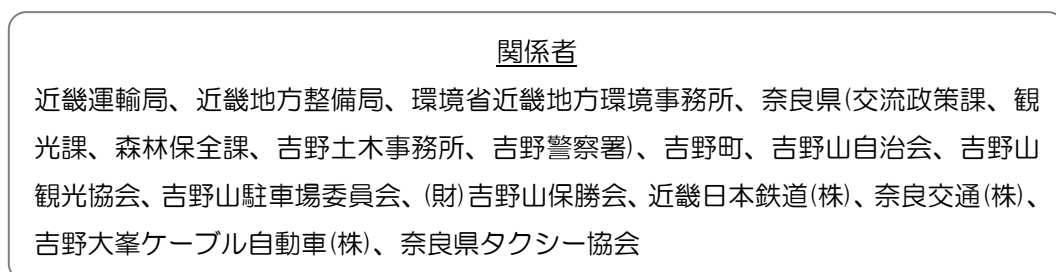
#### ■長年にわたる P&BR 施策の積み重ねに立った活プロの実施



#### ■協力金を広く求め、反対もなく黒字化を達成



#### ■様々な関係者が参画し取組がおこなわれた



## 事例9 秋吉台エリアにおける生活交通利用促進のための地域交通検討プロジェクト

### ①プロジェクトの概要

秋吉台地域への公共交通は、生活交通路線バスがその役割を果たしているが、マイカーの普及等により生活路線の維持が困難な状態である。

また、秋吉台地域は自然資源に恵まれた観光地であり、平成17年11月に秋吉台地下水系が国内初のラムサール条約に登録され、観光客の増加が期待されている。

しかし、観光客の多くは貸し切りバスかマイカー利用であり、マイカーに頼らず公共交通を利用した観光客の増加を図るべく、デマンド型の公共交通システムや携帯電話を活用した観光情報システムの構築など、観光振興と連携した地域交通の活性化・検討を行った。

### かるすとタクシー



出典：美祢市 HP

### ②実証実験の概要

秋遊ウォーク秋吉台と題して、平成18年10月28日～11月12日に実証実験を実施。

#### ○デマンド型の公共交通システム機能

秋吉台に点在している観光地を結びデマンド型タクシーを運行（7往復 14 便、独自停留所 13 箇所、ゾーン運賃制、運行事業者2社が日替わり運行）

#### ○ウォーキング計画策定

ウォーキングコースを作成

#### ○携帯電話を活用した観光情報システム

ウォーキングコース上を歩きながら途中で立つQRコードの看板を携帯電話のカメラで撮影させて音声ガイドサービスを実施



**ウォーキングのお供に  
ケータイで聞く  
音声案内**

※権利は無料ですが、パケット代は各自負担となります。その他、ご利用方法は各観光センターにお問い合わせてください。

- ① QRコード読み取り  
携帯電話のカメラを使ってパソコンのQRコードを読み取ります。
- ② ダウンロード  
表示されるURLにアクセスし、データをダウンロードします。
- ③ 再生  
再生すると音声案内が流れます。画面付の案内もあります。

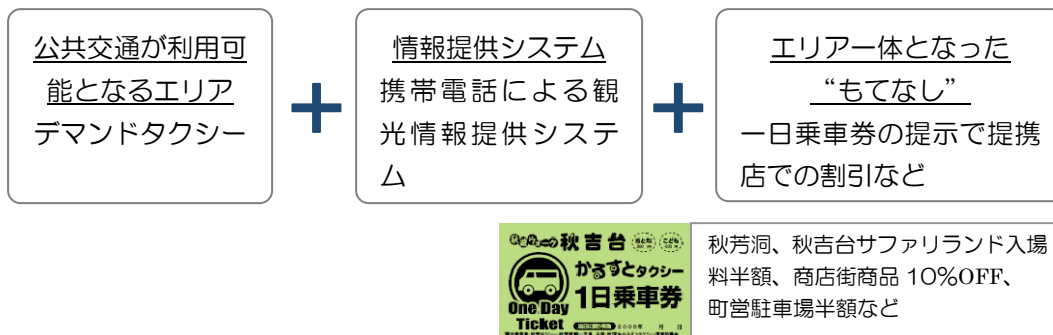
①ながじやく

②北山

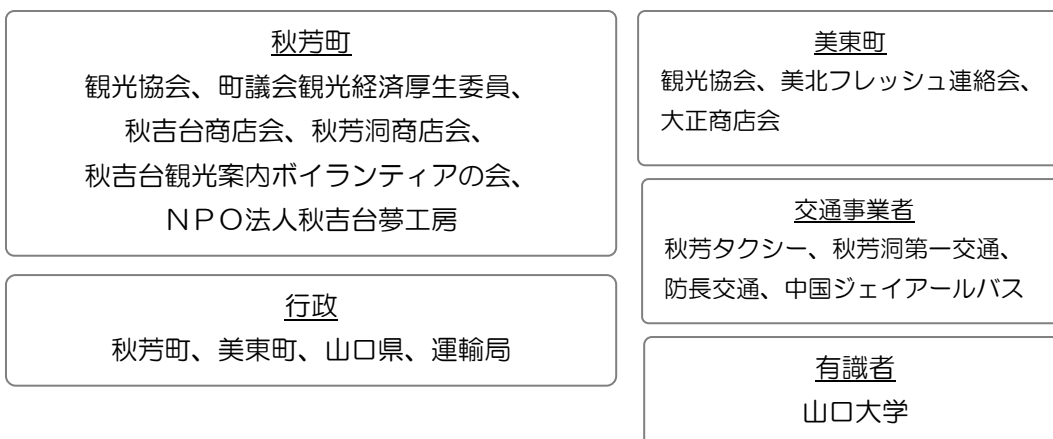
ウグイス

### ③プロジェクトの特徴

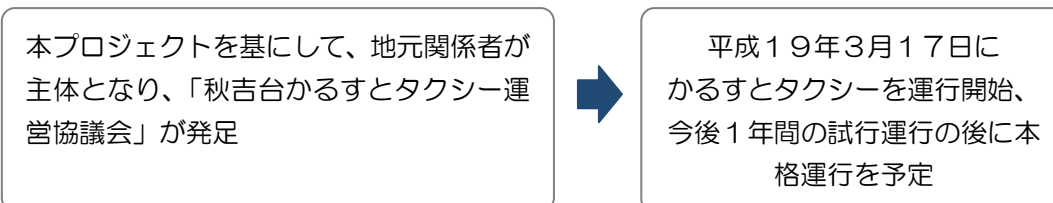
#### ■デマンドバスの他に様々な付加要素をつけ実施



#### ■商工、観光、交通事業者等の幅広い関係者が参画



#### ■地元自治体や関係者が主体的に実施



## ■参考 平成 18 年度事業一覧

NO	略名	案件名
北海 1	当別	当別町コミュニティバス実証運行に係る利用動向検討プロジェクト
北海 2	札幌	札幌散策バス(仮称)による交通活性化検討プロジェクト
北海 3	帯広	帯広市における公共交通需要予測に関する調査
北海 4	ニセコ	ニセコ・羊蹄地域における冬期リゾート交通検討プロジェクト
北海 5	周遊航空券	北海道周遊航空券による航空交通活性化検討プロジェクト
北海 6	摩周湖	北海道遺産・摩周湖におけるエコ交通整備検討プロジェクト
東北 1	フェリー	カーフェリーを活用した広域地域振興プロジェクト事業に関する調査
東北 2	八戸	八戸市における持続性の高い地域交通実現のための再編モデル実験
東北 3	北上	過疎地域における生活支援輸送とからめた生活交通体系の構築による公共交通活性化プロジェクト
東北 4	仙山圏	仙台空港アクセス鉄道開業に伴う広域交流促進プロジェクト事業に関する調査
東北 5	ハリアフリ	平成18年度ハリアフリーボランティア事業
東北 6	いわき	いわき市における地域資源を活用した地域振興プロジェクト
東北 7	福島	県都福島地域交流活性化プロジェクト調査
東北 8	秋田	バス・乗合タクシーを効率的に組み合わせた地域交通再編プロジェクト事業に関する調査
東北 9	仙台	仙台市内繁華街における待合タクシーによる交通渋滞解消等に関するプロジェクト事業に関する調査
関東 1	育児	育児支援タクシーの普及促進
関東 2	日立電鉄	地域の再生と連携したローカル鉄道の活性化支援調査
関東 3	北杜	北杜市合併に伴う地域公共交通再編計画事業に関する調査
関東 4	富士吉田	富士吉田市公共交通活性化支援業務
関東 5	日暮里	都県境地域における総合的な公共交通ネットワークの構築に関する調査
関東 6	朝霞 MM	企業従業員に対するモビリティ・マネジメントの実施による公共交通への利用転換
関東 7	川越	観光振興と一体となった舟運等公共交通の活性化・円滑化の促進に関する調査
関東 8	カニ	カーシェアリングを活用した自家用自動車抑制の施策に関する調査
関東 9	前橋	前橋市コミュニティバス見直し計画
関東 10	企画 IC	企画切符型バス IC カード導入等によるバスネットワークの推進に関する調査
関東 11	ハリアフリ	ハリアフリーボランティア事業の新たな展開
関東 12	秩父	秩父鉄道を中心とした公共交通利用円滑化の検討
関東 13	土浦	NPO による「まちづくり活性化バス」の利用促進策の策定
関東 14	水陸両用	水陸両用車の活用による新たな交通システムの構築及び水上交通の活性化
関東 15	TXバス	つくばエクスプレス開業に伴うバス路線再編等の評価と新たな改善策の検討
関東 16	栗野 MM	企業従業員を対象とした通勤交通マネジメント施策に関する調査
北陸 1	新潟	新潟スタジアム公共交通アクセス利便性向上プロジェクト
北陸 2	佐渡	新潟県中越地震等に伴う佐渡島の観光復興及び公共交通の活性化プロジェクト
北陸 3	東北信	長野県東北信地域における公共交通及び観光活性化プロジェクト
北陸 4	安曇野	長野県安曇野地域における公共交通システム構築プロジェクト
北陸 5	伊那	伊那地域における新たな交通ネットワークシステム構築プロジェクト
北陸 6	上田	長野県上田地域における公共交通活性化プラン策定プロジェクト
北陸 7	金沢	金沢市圏における I T 機能を活用した総合的な交通システムの構築に関する調査
北陸 8	ハリアフリ	J R 新潟駅におけるハリアフリーボランティア事業に関する調査
中部 1	豊田	新豊田市・三好町を跨る圏域における公共交通活性化に関する調査
中部 2	名古屋駅	名古屋駅等主要結節点における公共交通活性化に関する調査
中部 3	福井鉄道	福井鉄道・福武線の L R T 導入を活かした都市間交通活性化プログラム策定に関する調査
中部 4	伊賀線	近畿日本鉄道・伊賀線の利用促進とバス交通の再編に関する調査
中部 5	浜松	浜松市における公共交通優先施策の推進によるバス交通活性化方策調査
中部 6	岐阜	岐阜市における市民主導型コミュニティバス交通運行プログラム(案件名変更)岐阜市におけるバスネットワークシステム整備の検討
中部 7	中部空港	中部国際空港アクセスの利便性向上に向けた具体策の検討に関する調査
中部 8	名古屋港	名古屋港・四日市港・三河港における内航船モーダルシフトに関する調査
中部 9	ハリアフリ	中部国際空港駅におけるハリアフリーボランティアの推進に関する調査
中部 10	伊東	伊東市における観光とセットにした公共交通の利用促進調査

NO	略名	案件名
中部 11	名古屋観光	公共交通の利用促進による観光資源の活用「なごや観光ルートバスの運行」について
中部 12	亀山 MM	亀山市の工業団地におけるマイカー通勤転換による公共交通利用促進活性化プログラム
中部 13	桃花台	新交通システム桃花台線廃止後の公共交通等利用状況変化に関する調査
中部 14	御殿場	御殿場・足柄地域における御殿場線の利用促進策検討調査
近畿 1	吉野山	世界遺産吉野山観桜期トッピングシーズンにおける交通アクセス改善プログラム
近畿 2	ハリアフリ	交通ハリアフリー基本構想における地域外利用者による現地調査に関する調査
近畿 3	三ノ宮	三ノ宮周辺における公共交通乗継円滑化関連調査
近畿 4	大津市	大津市周辺地域における公共交通機関への利用転換方策プログラム
近畿 5	和歌山	和歌山 21 世紀型交通まちづくりプログラム
近畿 6	京都 MM	京都市圏における公共交通(鉄道・バス)活性化プログラム
近畿 7	阪神都市圏	阪神都市圏におけるバス利用促進プログラム
近畿 8	西宮	阪急西宮北口駅南地区における公共交通活性化プログラム調査
近畿 9	六甲	六甲摩耶有馬地区のエコツーリズムによる観光活性化と連動した公共交通活性化・利用活用検討プログラム
近畿 10	和泉 MM	事業所団地を対象とした企業の自主的な交通マネジメント施策導入調査
神戸 1	高松航路	神戸-高松フェリー航路活性化に関する調査研究
神戸 2	神戸港	神戸港中突堤を中心とする公共交通活性化に関する調査研究
中国 1	石見銀山	「世界遺産候補「石見銀山」エリアにおける生活環境と観光の両立を目指す交通計画策定プロジェクト」に係る調査
中国 2	呉線	観光振興策等と連携した J R 呉線活性化検討プロジェクト
中国 3	倉敷	倉敷市公共交通体系の調査検討
中国 4	若桜谷	中山間地(若桜谷地域)における将来の交通体系整備に関する調査
中国 5	広島	広島市内の公共交通機関利用に係る情報提供のあり方に関する検討調査
中国 6	秋吉台	秋吉台エリアにおける生活交通利用促進のための地域交通検討プロジェクト
中国 7	マニュアル	地域のニーズに応じた効率的な乗合旅客輸送サービスの導入・促進プロジェクト
中国 8	長距離フェリー	長距離フェリー航路の寄港を契機とした日本海沿岸地域振興方策の検討
中国 9	米子	米子空港アクセス改善プロジェクト
四国 1	四国西南部	四国西南部の地域活性化
四国 2	ハリアフリ	旅客施設周辺の活性化・魅力づくりに向けたハリアフリーボランティア事業
四国 3	高知東部	全国屈指の海洋資源を活用した公共交通の活性化(高知県東部地域)
四国 4	ことでん	ことでん新駅の設置に伴う域内交通の結節強化
四国 5	しまなみ	しまなみ海道の活性化
四国 6	丸亀	丸亀市におけるコミュニティバスの活性化
九州 1	天神	既存の公共交通の連携による「人に優しい」天神づくり
九州 2	久大本線	J R 久大本線を活用した観光による沿線地域の活性化
九州 3	全九州	全九州フリーきっぷ(仮称)の利用促進策検討
九州 4	喜界航路	鹿児島～喜界～知名航路の利用促進及び物流活性化に関する調査
九州 5	長期滞在	長期滞在型観光客の需要取り込みによる公共交通維持・活性化方策の検討
九州 6	日田 MM	大分県日田市における MM を活用した公共交通活性化の取組
九州 7	鹿児島中央	鹿児島中央駅を中心とした主要施設・観光地へのバスマップの作成
九州 8	釜山	博多・香岐・対馬・釜山周遊キップを活用した観光客誘致による公共交通の活性化
九州 9	阿蘇 DMV	南阿蘇地域における新交通システム(DMV)導入による公共交通活性化
沖縄 1	竹富	竹富島における島内交通システム策定調査
沖縄 2	那覇観光	那覇市圏における個人型・自由行動型観光に即した公共交通利用方策検討調査
沖縄 3	名護	名護市を中心とした沖縄本島北部地域における生活交通の確保方策検討業務

## ■問合せ先

北海道運輸局	〒060-0042	札幌市中央区大通西10 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 011-290-2721 電話 011-290-2724
東北運輸局	〒983-8537	仙台市宮城野区鉄砲町1 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 022-791-7507 電話 022-791-7509
関東運輸局	〒231-8433	横浜市中区北仲通5-57 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 045-211-7209 電話 045-211-7267
北陸信越運輸局	〒950-8537	新潟市中央区万代2-2-1 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 025-244-6118 電話 025-244-6116
中部運輸局	〒460-8528	名古屋市中区三の丸2-2-1 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 052-952-8006 電話 052-952-8045
近畿運輸局	〒540-8558	大阪市中央区大手前4-1-76 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 06-6949-6409 電話 06-6949-6466
神戸運輸監理部	〒650-0042	神戸市中央区波止場町1-1 総務企画部企画課	電話 078-321-3144
中国運輸局	〒730-0012	広島市中区上八丁堀6-30 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 082-228-8701 電話 082-228-3495
四国運輸局	〒760-0068	高松市松島町1-17-33 企画観光部交通企画課 交通環境部環境物流課	電話 087-835-6356 電話 087-825-1173
九州運輸局	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東2-11-1 企画観光部交通企画課 交通環境部環境課	電話 092-472-2315 電話 092-472-2330
沖縄総合事務局	〒900-0006	那覇市おもろまち2-1-1 運輸部企画室	電話 098-866-1812
国土交通省	〒100-8918	東京都千代田区霞が関2-1-3 総合政策局交通計画課	電話 03-5253-8275